

事例で深める!

学習評価

実践校の取り組みを基に、
学習評価をより充実させるポイントを
田村先生がアドバイス

北海道滝川西高校

評定への総括の組み合わせの 議論を通じて、評価の質を向上



アドバイザー

観点間の関係性を踏まえ、各観点 の評価結果の組み合わせを絞る

田村

貴校は、観点別学習状況の評価（以下、観点別評価）の結果を評定に総括する方法を見直したと伺いました。

一條 本校は2022年度に、各観点の評価結果の組み合わせから評定に総括する方法（図①）を採用し、23年度までその方法で評価してきました。しかし、24年度に着任した三井校長から、その方法の懸念点が示され、見直しが提案されました。

三井 着任後、評定に総括する方法について聞いたところ、内規に示された3観点の評価結果の組み合わせ、すなわちA、B、Cの並び

順は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順ではなく、その組み合わせであれば、並び順は問わないということになっていました。

しかし、各観点で評価する内容

や、観点間の関係性を踏まえると、例えば、「知識・技能」がCで、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」がAやBの「AA」「CBB」は極めて起こりにくいと考えられます。そこで、文部科学省から示された学習評価の考え方を改めて確認した上で、起

こりにくい組み合わせを評定への総括の対象から外し、妥当性があると考えられる7通り（図②）に絞りに、評価の視点や方法を根本的に見直す、意義深い機会になったのではないかと、先生方

田村

観点間の関係性について深く理解した上で、「起こりにくい組み合わせがある」という視点から評定に総括する組み合わせを整理しました。そのプロセスは、極めて価値のあるものです。先生方は、これまで3つの観点を個別に捉えた評価から、観点間の関係性を踏まえた評価に転換することになり、評価の視点や方法を根本的に見直す、意義深い機

北海道滝川西高校プロフィール



左から／一條直紀（教務主任、数学科）、三井智和（校長）、押上恭徳（1学年主任、数学科）

設立	1972（昭和47）年
生徒数	1学年約200人
2024年度卒業生進路実績	国公立大は、小樽商科大、帯広畜産大、北海道教育大、北海道大、室蘭工業大、札幌市立大などに22人が合格。私立大は、札幌大、北星学園大、北海学園大、北海道医療大、立命館大などに延べ115人が合格。短大・専門学校進学75人。就職31人。
形態	全日制／普通科・情報マネジメント科／共学

専門は教科教育学、教育方法学、カリキュラム論。文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官、同省同局視学官、國學院大學教員などを経て、現職。著書に『学習評価』（東洋館出版社）など多数。

田村 学（たむら・まなぶ）
文部科学省 初等中等教育局
主任視学官
専門は教科教育学、教育方法学、カリキュラム論。文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官、同省同局視学官、國學院大學教員などを経て、現職。著書に『学習評価』（東洋館出版社）など多数。

三井 そうだと思います。24年度の

後期は7通りを基に評定に総括したところ、特に実技を伴う教科から、「思考・判断・表現」の評価において必ずしも『技能』の活用を前提としないケースがあり、結果として、

『知識・技能』の評価と連動しない場合がある」といった意見が年度末に出ました。それを踏まえて再度、教務部と協議し、25年度の評定に総括する方法を見直すことにしました。

図 各観点の評価結果の組み合わせと評定の対応表

		状況	十分満足できるもののうち、特に高い程度のもの	十分に満足できると判断されるもの	概ね満足できると判断されるもの	努力を要すると判断されるもの	努力を要すると判断されたもののうち、特に程度が低いもの
① 2024年度 前期まで	各観点の評価結果の組み合わせ	AAA、AAB	ABB、AAC	BBB、ABC ACC、BBC	BCC	CCC	
	評定	5	4	3	2	1	

A、B、Cの並び順は問わない。



		各観点の評価結果の組み合わせ	AAA、ABA	ABB	BBB、BCB	BCC	CCC
② 2024年度 後期	評定	5	4	3	2	1	

A、B、Cの並び順は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順。



		各観点の評価結果の組み合わせ	AAA (ABA、BAA)	ABB (BAB)	BBB (BCB、CBB)	BCC (CBC)	CCC
③ 2025年度 から	評定	5	4または3	4または3	3または2	2または1	

A、B、Cの並び順は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の順。()の組み合わせは、「知識・技能」と「思考・判断・表現」が連動しない場合のみ。

※学校資料を基に編集部で作成。

田村 三井校長が先生方に配布された資料は、観点別評価の考え方や校内の課題、ご自身の考察が丁寧にまとめられていて、先生方が評価方法を見直すための足場がけになつていると感じました。24年度末に出た各教科・科目からの意見を踏まえ、評定に総括する方法をどのように見直しましたか。

一条 発表やレポートなどによるパフォーマンス評価を行う際、「知識・技能」が「B」でも「思考・判断・表現」が「A」になる場合があるのではないかといった声があり、4通りを追加した11通り(図③)で評定に総括することにしました。

田村 7通りに絞つて総括をした時の違和感を基に、再び見直して11通りにし、教師がより納得する総括のあり方にたどり着いたのですね。私が担当する数学科では、その見直しをきっかけに、「思考・判断・表現」の評価の精度をより高めようと議論しています。答えまでの

田村 発表やレポートなどによるパフォーマンス評価において、「よい発表だった」の「よい」が、内容に関するものであれば「思考・判断・表現」の、粘り強さや自己調整に関するものであれば「主体的に学習に取り組む態度」の評価を出すなど、定期考査の問題や発表の課題などの設計において試行錯誤しています。

三井 観点別評価の考え方を改めて整理できました。今後も現場の意見を聞きながら、評価のあり方・方法を見直し続けていきたいと思います。